中納言雅兼卿集

暁月寓

金

[illegible]

山花初殺

[illegible]

水上落花

金

[illegible]

池邊柳

金

[illegible]

毎月見花

咲ちらいくつまれるむかしの物語りする山の花のあるあるに

松間花

ちりのこる松の風をいとゝん哀なる花の香のかしこふ

白河の花見御幸

金

年毎に花ぞ咲ける春ゆゑ

落花盈地

苔むしろ人のあとなき山ゆゑ

苔上落花

ちるあるけるものを散花とゝ物ゝと思ひまとゝ

水上落花

咲ハ春ちるハ春のなかれ花　河上水面

夜梅遠薫

波のうつる岸に未開くかほる梅はのゝ風成流

花経年香

小まはるはるもたゝる梅花ぶく風ふるまるん

三月盡

花ちるハ小まはるはるもたゝる春ゆゑ里人ふるる

河邊歎冬

心しらぬ水ゆゑ世ハ春ゆゑ山吹ハ月ゆゑ

遠水螢

[illegible]

未開郭公

[illegible]

夏夜月

[illegible]

路夏草

[illegible]

六月恋郭公

[illegible]

晩風告秋

[illegible]

初開郭公

[illegible]

名越秋

[illegible]

草花告秋

金

[illegible]

秋月

[illegible]

早萩

[illegible]

萩のうへに花咲にけりとおもふ　　ちかあきそ

七月八日

久方の天川かゝはをあてはるかへる雲のとゝろと

をんなへしはなみゝ

女郎花かしくをみはこの秋風のゆくゑ遠しとかりしは

八月

をのゝ山の裾野〳〵紅葉にをけるうつの月

八月十五夜

秋とにはの月数のこゝろ。れいしやいかゝをまもり

おもしろき月の十六日十七日女郎花

悲しき涙をかたらにもあはせ月はあはれに心ひとつ

晩開庶　皇后宮にて

ゆかしきかへるかへるかをゝ鳴梅のかゝ山の木末ゆ元

永久元年九月依山大衆事下向河尻道歴

覧住吉社於侯江詠

すみよしの松のしらゝ波の枝もゝ岩ゝまをおもふ浪

陳垣紅葉

ゆふ〳〵はかはらぬ木枝のもみぢ葉ふかくそめん

月前落葉

かゝれぬるのゝ木ゝ枝の月ゆゑ紅葉ゆゑ

移野花

秋ふかき野原の花を風ぬけらに露もあさぎりはらはせる

十月紅葉

高雲のもみぢはかくれぬ秋の日はかぎりなき山の紅葉

船中晩涼

夕風の涼しき秋の海の上の夏の風とすずしかりけり

旅門秋深

秋ふかき山風をしたひあるこころにたえぬ門へ来ぬれ

駒迎

[illegible]

逢坂の関もる神ぞ[illegible]

逐夜雪深

[illegible]

鷹狩

御狩せるかの野すがたとうるとまひの跡やくもん

初雪

[illegible]

梅聚人

[illegible]

[illegible]

戀春花

[illegible]

月照松

[illegible]

月照橋

[illegible]

松久緑　公宴

[illegible]

海夏戀

[illegible]

尋不逢戀

[illegible]

未有障戀

[illegible]

雲ふかき

[illegible]

陳曉增戀

[illegible]

情猶同心

[illegible]

貪人恋

[illegible]

近江遇恋

伊勢島や[illegible]

不同人恋

[illegible]

恋恋

[illegible]

山家恋

[illegible]

思いやと松の風ふかぬ夏山の[illegible]

寄石恋

山里の岩垣ゆゑ[illegible]

寄水鳥恋

[illegible]

同権大納言家歌合上月の心

[illegible]

同置女自地出の心

[illegible]

慈仏

九月十三夜くもりて出家あるべきまゐり
まゐりて雅うけたまはりしまの月い十四夜とせいみへうの後
はるへのまのことに雲とも今宵の月やかうらかもん

返し　中務卿平實重

文を
ゆかるの秋のなるれば年を経てそん

返　實重

九月のまひはてくるもの秋とかうまれい名少をうる海

文

ふれ又うれ世ふんくるもあかて心の海に月をうにうつす

返　実定

世ひすて西へ行とい知るうてんしせいふ山のてせん月
思へかもとふかうしかも雲のうへうさるふ月のかをうてうう
よ式人ふ月みうとのうをかう秋也我身のうへう成るる

文

ふうかとい海うるかをせ秋の月雲はうへ海し人ふ月みうかた

實重　義尚系成恭也

雲ふい月の光とせふるわいい心をかうとぬうるかも南

世のうきもさこそ
なれ以前世を捨てし身なれども
義のうたがひ出れども
世中にまじらひのうらにくもるを見るうれ
ぬ
涼閑年七月七日
波のうかぶ夜を秋の夜を人のうたがひ
遭喪時不飲人の件をいへる
人をもあはれて道ゆき宮のうれ世をうんのこと
ふ
かりさはれ行を限りとこそいつまやとこそいてをもうる人をうらんあ

死ぬ
笑ふれを
ふるさと我みてやあはれ花桜ちるをうらん
中納言にかたりたるを宮居ちるあり
ちひあはせ
樹をさしてものいはぬ梅のもとにかをむ
雅頼異飲して例時奏門裏出家後
うれしかりしかへりとけむまものうたの
せつなるかな

右雅兼卿集以佐伯侯秘本書寫

民部卿伊勢使にくしかはるとて

人くの浦の松をたのみて

いそ川をたどる水ぬるいかなる人か飛ぶらんの関

三条殿の中宮にまゐりまゐらせて其内ふて

人くの月の心をたにて

中とおもひ雲のなかをあけ月のみるかの関をすむ心の

同御方にて草花岩根をしらんに

花ぞまづ咲ぬるかぎりなるかぎりいまはの関をしたやまの

新院御方にて人くの春花感心をよめる